



JAL不当解雇撤回ニュース

No408 2014.11.15
発行: JAL 解雇撤回国民共闘事務局
連絡先: 航空労組連絡会事務局
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4
フェニックスビル内
TEL: 03-3742-3251 FAX: 03-5737-7819
<http://www.jalkaikotekkai.com>

14年末闘争……乗員組合、キャビンクルーユニオン(CCU)

高率の賛成で、争議権確立！ 団結の力で不当解雇撤回の自主解決を迫る

日航乗組、CCU は、14 年末闘争の真ただ中。要求の実現に向けて会社と交渉中です。不当解雇撤回要求にも争議権をかけて闘っています。争議権は、CCU が 9 割、乗員組合は 8 割を超える高賛成率で確立しました。話し合いすら拒否している日本航空。現在両労組は争議権を背景に、不当解雇問題の早期自主解決を迫っています。

介入打ち破り自主解決迫る新たな闘いへ

2010 年大晦日に 165 名が解雇されてから 4 年。不当解雇強行に至る過程で、両組合は整理解雇回避のため、争議権投票を始めましたが、管財人らによる介入(都労委でも東京地裁でも不当労働行為と認定)が行われました。その結果、職場に不安と動揺を与え、乗員組合は争議権投票を中断、CCU 組合はストを構えて闘いましたが、回避しました。年末闘争における両組合の闘いは、都労委命令や地裁判決を力に会社の不当労働行為を打ち破り、団結した職場の力で、日航に自主解決を迫る新たな闘いの第一歩です。



乗員組合の団交には多数の組合員が傍聴

全社員が一丸とない年末闘争を闘おう

11月7日 JALグループ全社員集会

11 月 7 日、羽田空港のギャラクシーホールにおいて JAL グループ全社員集会が行われ 135 名が参加しました。整備・乗員・グランドハンドリングの各職場の実態や取り組みが報告され、会社の好調な決算も学習しました。今年末闘争で全社員が団結して職場改善を目指すことを確認しました。

国民支援共闘から5名が参加

- 全 労 協 金沢議長
- 全 労 連 井上事務局長
- 全国港湾 市川事務局次長
- 国交労組 伊藤副委員長
- 支える会 熊谷元全労連議長

乗員組合

前任機関士組合

CCU

新たな反撃へ

機長組合

日航ユニオン

グラハン労組連合会



奪われた時間と職場を皆で取り戻したい ～訓練再開を約束させた FE 訓練生～

乗員、客乗、整備、グランドハンドリングと、どの職場も人手不足で、労働環境が悪化し、退職する人が後を絶ちません。「部門別採算性が入ってから、整備の品質は低下した」などの報告が、各労組から出されました。

私も言いたいと言言に立った乗員の人は、「航空機関士からパイロットへの移行訓練の最終段階で会社が破たんし、訓練が中止となり、8名が地上職に職種変更させられた。諦めないで闘った結果、訓練再開の約束を勝ち取った。解雇された人たちの奪われた時間と職場を一緒に取り戻したい」と決意を語りました。

安全の低下を招く部門別採算性 日航ユニオンの諏訪書記長

JAL は、2014 年度通年の営業利益見通しを、180 億円に上方修正した。その一方で職場は、部門別採算性による利益追求で、労働者が物のように扱われている。部門別採算性は安全の低下を招くと述べ、グループ全体で進めている部門別採算性の問題点を指摘しました。

JALグループの仲間からも連帯のあいさつ



JAL グループのグランドハンドリング労組連合会の仲間も集会に参加しました。「職場の頑張りがあるからこそ、悪天候下でも運航が守られている」、しかし「地上の劣悪な労働条件により、地上の職場から安全が崩れ初めている」、「JGS 札幌労組の冬期手当については、今年末で何としても勝ち取りたい」との決意表明がありました。

JALと日東整の原告団から力強い訴え

乗員原告の飯田副団長から、「4年前の解雇によって、物の言えない職場になり、解雇された者は人生を変えられた。会社に自主解決をさせるために、職場の突き上げが必要。解雇を放置したまま、真の再生はない。JAL の健全な発展のために、職場と一緒に頑張りたい」との訴えがありました。

日東整争議団の佐藤さんは、控訴の報告をするとともに、新たに開始した「高裁あて要請署名」への協力を訴えました。



JAL原告団の争議支援の物品販売についてはみなさんのご協力で完売しました。
ありがとうございました。

